

神戸交通労働組合乗務支部との交渉議事録

1. 日 時：令和7年9月5日（金）16時00分～17時25分
2. 場 所：名谷業務ビル3階 変電区会議室
3. 出席者：【当局】運輸課長、運輸係長、企画係長、係長（乗務担当）
【組合】乗務支部長、他5名
4. 発言内容：別紙のとおり

【当局】 前回提案した隔日勤務の時差仮眠について、支部から提出された作業ダイヤの内容を確認し、課題を整理したうえで精査をおこなった。改めてこちらの内容で提案したいと考えている。

なお、導入時期については、乗務員の欠員によって生じる乗務助役の負担や、運転指令区の業務が列車無線のＳＲ化により一定整理されることなどから、ワンマン化開始時期に合わせて実施できるよう進めていきたいと考えている。

健康管理の観点から５時間半の仮眠時間を確保する提案であったが、業務内容を整理する中で全ての仕業において５時間半を確保することが困難であったため、仮眠時間の短い仕業については早朝に別途、休憩時間を設けることで休息が取れるようしている。内容について確認いただきたい。

【組合】 仮眠時間と休憩時間は性質の違うものと考えている。また、この問題については駅務も関係することから支部単位ではなく、部会での議論としたい。

【当局】 承知した。乗務付帯時分の提案内容についての進捗はどうか。

【組合】 前回の提案内容を持ち帰り提案資料の確認をおこなった。点呼準備時間については、出勤時の手帳記入時間、掲示物確認時間を複数名で実測したところ、手帳の記入に平均９分、掲示物の確認に平均７分かかっており、その他の時間を加えると現行通りの２０分が妥当ではないか。また、退勤点呼時分については、何ものなければ２分で済むが、必要な伝達事項があった場合など、５分程度は必要と考えるがどうか。

【当局】 実測時間については、近日中に当局と組合とで改めて同時計測を行ったうえで確認したい。また、退勤時の報告時分については、退勤時間を越えれば実時間を付与する形としたいと考えている。

【組合】 乗務付帯時分については、一緒に計測を行い確認する。また、退勤報告の実時間については、付与する時間を確実に管理する前提であれば問題ない。なお、仮眠前後の着替え時分については駅務支部も含めて必要と認識しているため分科会、部会で改めて話をしていきたい。

【当局】 承知した。休憩時間の件や、着替え時分の件は分科会や部会で進めていく。そのほかに何かないか。

【組合】 乗務員の欠員が改善できていない状況をどのように捉えているのか考え方を伺い

たい。

【当局】 現状を把握し、現場とも話し合いながら様々な対策を実施してきたが、残念ながら根本的な解決に至っていないことを認識している。今後も運輸課としてできる範囲で欠員解消に向けた取組みを進めていきたいと考えている。

【組合】 乗務員がこのような状況で仕事をしている中、管理職、特に所属長が現場に赴き声掛けを行うなど、積極的にコミュニケーションを図り、気持ちの面での負担が軽減できるよう心掛けていただきたい。

【当局】 全ての乗務員とコミュニケーションを取るのには難しいと思うが、助言として受け止めておく。

【組合】 公休出勤について、回数が少ない乗務員に対して管理職から協力依頼は行っているのか。

【当局】 極端に回数が少ない乗務員に対しては直接声掛けを行っている。今後は2回終了者にも対象を拡大して声掛けは行っていく。

【組合】 難しい判断ではあるが全体の底上げを行ううえでは必要なことと考えている。また、一部の乗務員の負担とならないような対策を要望しておく。

【当局】 承知した。対策を検討し、できる限り実施していきたい。